

SABOカード

砂防施設の魅力を情報発信するために配付する広報用のカード型パンフレットで、金沢河川国道事務所では、「御鍋砂防堰堤」「甚之助谷砂防堰堤群」「甚之助谷上流第16号砂防堰堤」「柳谷第7号砂防堰堤」のSABOカードを発行している（R.3.3月現在）。これらのカードは、白山砂防科学館内の「百万貫岩を調べよう」コーナーのクイズに回答して、「百万貫岩研究所研究員 認定書」をもらった人に配布している。



百万貫の岩

● 百万貫の岩の誕生

百万貫の岩は、昭和9年(1934年)7月の「手取川大洪水」により誕生した。岩塊は、白峰一帯に広く分布する中生代ジュラ紀後期～白亜紀前期の手取層群に属し、岩相は、灰褐色中粒砂岩と拳大の珪質岩礫を含む粗粒砂岩とからなる。

梅雨前線による記録的豪雨と残雪に伴う融水により、手取川と合流する宮谷川の上流にあった巨大岩塊が手取川に押し流され、土石流によって約3km流れてきたと言われている。この付近には当時流されてきた巨石がたくさん点在している。



● 百万貫の岩の大きさと重さ

百万貫の岩は、その大きさから百万貫(3,750t)の重量があるとされ、「百万貫の岩」と呼ばれている。正確な重量を知るため、平成7年9月に計測を実施、非接触型距離計測や岩質密度などから高さ16m(地上部は13m)、幅は最大で19mあり、重さは4,829t(約129万貫)、体積は1,890m³と算定され、流出岩塊としては日本最大級の規模である。

百万貫の岩の比較写真



昭和9年頃撮影の百万貫の岩



現在の百万貫の岩

● 天然記念物の指定

百万貫の岩は、平成13年(2001年)12月25日に石川県の天然記念物の指定を受けた。

百万貫の岩は、地表部を「非接触型計測システム」(火山地帯や崩壊地、急峻な岩盤斜面など立入が困難な場所の地形を非接触で計測する技術)と地下部は「弾性波計測システム」(非破壊で数10m規模の構造物の不可視部分の形状を測定する技術)の2つの技術により、体積が求められた。右はコンピューターにより再現された百万貫の岩。

